

宗教に見る人間の尊厳

浅野幸治

授業の内容

1. 「ヨブ記」
2. ホロコースト
3. ジャン・バニエとラルシュ

授業の特徴

- ジャン・バニエ『人間になる』を読まされる。
- ホロコーストの映像資料を見ることができる。
- 島しづ子牧師の講話を聞くことができる。

第1回 序論

- 神様は、いるか。
 1. いるような気がする。
 2. いないような気がする。

雪男を探しても、見つからなければ、いない。
同じように、神様を探しても、見つからなければ、いない。
 3. 考えたこともない。
- でも、神様って、どんな存在か。

守護神ではない。

- 人間の尊厳とは、何か。

人間の尊厳＝基本的人権

- なんで、そんなものがあると分かるか。

人間の尊厳が犯されたときに、私たちは、犯されてはならないものが犯されたという**憤り**を感じる。

第2回 旧約聖書の基礎知識

- 旧約聖書 ヘブライ語
- 新約聖書 ギリシア語
- ユダヤ民族 メソポタミア(ペルシア人)、エジプト(エジプト人)、小アジア(ヒッタイト人)の大国に囲まれ、圧迫された弱小民族。
- **憧れ**(Longing)の重要性

• 旧約聖書39書の構成

- 歴史書 創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記、ヨシュア記、士師記、ルツ記、サムエル記上下、列王記上下、歴代誌上下、エズラ記、ネヘミヤ記、エステル記
- 文学書 ヨブ記、詩篇、箴言、コヘレトの言葉、雅歌
- 預言書 イザヤ書、エレミヤ書、哀歌、エゼキエル書、ダニエル書、ホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデヤ書、ヨナ書、ミカ書、ナホム書、ハバクク書、ゼファニヤ書、ハガイ書、ゼカリヤ書、マラキ書

- 旧約聖書が書かれたのは、早いもの(5書の物語の1部)で前10世紀から、遅いもの(ダニエル書)で前2世紀まで。
- 罪の4段階
 1. 意識
 2. 楽しむ
 3. 同意
 4. 実行

第3回 旧約聖書の内容

- 創世記 1～2、3、6～9、11
- 出エジプト記 13～20
- 詩篇 42、49
- イザヤ書 2

モーセの十戒

- 第1戒 唯一神。
- 第2戒 偶像崇拝の禁止。超越神。
- 第3戒 主の名をみだりに唱えてはならない。
- 第4戒 安息日を心に留め、これを聖別せよ。
- 第5戒 父母を敬え。
- 第6戒 殺してはならない。
- 第7戒 姦淫してはならない。
- 第8戒 盗んではならない。
- 第9戒 隣人に関して偽証してはならない。
- 第10戒 隣人のものを欲してはならない。

「あなたがたも聞いているとおり、『姦淫するな』と命じられている。しかし、私は言っておく。みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである。もし、右の目があなたをつまづかせるなら、えぐり出して捨てててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に投げ込まれない方がましである。もし、右の手があなたをつまづかせるなら、切り取って捨てててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に落ちない方がましである。」(マタイ5:27-30)

第4回 ヨブ記1

- ヨブ記の構成

- 1～2 発端

- 3 ヨブの嘆き

- 4～27 友人との論争

- 4～14 第1(エリファズ、ビルダド、ツォファアルと)

- 15～21 第2(エリファズ、ビルダド、ツォファアルと)

- 22～27 第3(エリファズ、ビルダドと)

- 28～31 論争後のヨブ

- 32～37 エリフの言葉

- 38～41 神の言葉

- 42 結末

- ヨブは、敬虔で、幸せな人であった。
- 幸福の構成要素
健康、財産、仲間、社会的評価
- 「ヨブが、利益もないのに神を敬うでしょうか。」
愛 自己愛か、真の愛か。
信仰 ご利益信仰か、純粹・無私の信仰か。

- 第1の不幸 子供と財産を失う。
「わたしは裸で母の胎を出た。裸でそこに帰ろう。主は与え、主は奪う。」 detachment⇔執着
- 第2の不幸 健康を失う。
生きることは苦しく、死んだ方がました。生まれてこなかった方がました。
- ヨブの嘆きは、神の前に泣く祈り。

- 第1の論争

エリファズ 因果応報、正義の神を信賴せよ。

ヨブ わたしが過ちを犯したとしても、あなたにとってそれが何だというのでしょうか。

ビルダド 子供に罪があったから。神は全能で誤らない。

ヨブ

ツォファル 神の知恵は計り難い。

ヨブ

- 第2の論争

エリファズ 神に向かって議論するのが罪だ。人間には罪がある。ヨブも例外ではない。

ヨブ 人間への絶望と神の希求

ビルダド 神に逆らう者の運命

ヨブ

ツォファル 神に逆らう者の運命

ヨブ 神に逆らう者が栄えている。

- 第3の論争

エリファズ ヨブは罪人、神は正義の神。悔い改めて、神に従え。

ヨブ 罪なき弱者の苦しみ(社会正義の視点)

ビルダド 人間はすべて罪人(神と人との対比)

ヨブ 「死に至るまで、わたしは潔白を主張する。わたしは自らの正しさに固執して譲らない。」

- 論争後のヨブ 平静な言葉で、神の力・正義・知恵と自らの潔白を述べる。
- エリフの言葉 神の絶対性・超越性
- 神の言葉 自然界(特に気象)に現れた神の存在・偉大さ……目的論的証明
- 結末 神と出会えたヨブの満足と悔い改め、ヨブの幸福の回復

ヨブの友人は「わたしについて正しく語らなかった」

- 主意説または神命論

神の意志が、何が善であり何が悪であるかを決定する。神はAを欲するから、Aが正しい。

- 合理主義

神の意志や命令も、合理的に説明できる。善悪は神に優先し、神といえども道德には従わねばならない。Bは正しいから、神がBを欲する。

- 思い悩むな(マタイ6:25~34、ルカ12:22~34)
- 善いサマリア人(ルカ10:25~37)
- エマオで現れる(ルカ24:13~35)
- 「1粒の麦は、地に落ちて死ななければ、1粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」(ヨハネ12:24)

第6回 ホロコースト1

- ホロコースト(ユダヤ人絶滅計画、大量殺戮)
約600万人のユダヤ人の殺害
- Holocaust = holos(すべて)+ kaustos(焼却)
生け贄の丸焼き→大火災、大殺戮
- Shoah(ヘブライ語) 絶滅、破滅

- 大量殺戮 1941年～1945年
- 年別死亡者数

1933～40年 10万未満

1941年 110万

1942年 270万

1943年 50万

1944年 60万

1945年 10万以上

合計 510万 (ヒルバーグ下:409)

- 強制収容所 ベルゲン＝ベルゼン、ブーヘンヴァルト、マウトハウゼン、ダッハウ、その他
- 絶滅収容所 アウシュヴィッツ＝ビルケナウ、トレ布林カ、ベウジェツ、ソビブル、ヘウムノ、マイダネク
- 特別行動隊 (Einsatzgruppen)

原因別死亡者数

- ゲッター 80万以上
- 戸外での射殺 130万以上
- 収容所 300万以下
（その内、絶滅収容所 270万以下）
- 合計 510万
（ヒルバーク下：408）

国別死亡者数

ポーランド	300万以下	ユーゴスラヴィア	6万
ソ連	70万以上	ギリシア	6万
ルーマニア	27万	オーストリア	5万以上
チェコスロヴァキア	26万	ベルギー	2万4千
ハンガリー	18万以上	イタリア	9千
リトアニア	13万以下	エストニア	2千
ドイツ	12万以上	ノルウェー	1千未満
オランダ	10万以上	ルクセンブルク	1千未満
フランス	7万5千	ダンツィヒ	1千未満
ラトヴィア	7万	(ヒルバーグ下:409)	

政治史

1920年 国家社会主義ドイツ労働者党
(Nationalsozialistische Deutsche Arbeiterpartei)

- 人種至上主義(反ユダヤ主義)
- 反共産主義
- 東方生存圏

1929年10月24日 大恐慌が始まる。

1931年12月 ドイツ国内の失業率が急上昇、
560万人が失業(40%)

歴代内閣表

シャイデマン(社)	'19.2~6	社・中・民
バウアー(社)	'19.6~'20.3	社・中
ミュラー(社)	'20.3~6	社・中・民
フォーレンバッハ(中)	'20.6~'21.5	中・民・人
ヴィルト(中)	'21.5~10	中・民・社
ヴィルト(中)	'21.10~'22.11	中・民・社
クーノ	'22.11~'23.8	中・民・人・バ
シュトレゼマン(人)	'23.8~10	人・中・社・民
シュトレゼマン(人)	'23.10~11	人・中・社・民
マルクス(中)	'23.11~'24.5	中・人・民・バ
マルクス(中)	'24.6~12	中・人・民
ルター	'25.1~12	中・人・民・国
ルター	'26.1~5	中・人・民・バ
マルクス(中)	'26.5~12	中・人・民・バ
マルクス(中)	'27.1~'28.6	中・人・民・バ
ミュラー(社)	'28.6~'30.3	社・人・民・中・バ

国会議席数

	1919	1920	1924. 5	1924. 12	192 8	1930	1932. 7	1932. 11	1933
社会民主党	163	102	100	131	153	143	133	121	120
独立社会民主党	22	84							
民主党	75	39	28	32	25	20	4	2	5
中央党	91	64	65	69	62	68	75	70	74
バイエルン人民党		21	16	19	16	19	22	20	18
ドイツ人民党	19	65	45	51	45	30	7	11	2
国家人民党	44	71	95	103	73	41	37	52	52
共産党		4	62	45	54	77	89	100	81
ナチス党			32	14	12	107	230	196	288
その他	7	9	29	29	51	72	11	12	7
合計	421	459	472	493	491	577	608	584	647

政党地図

- ナチス（極右）
- 国家人民党（右）
- バイエルン人民党
- ドイツ人民党（保守）
- 中央党（中道）
- 民主党（リベラル）
- 社会民主党（左）
- 独立社会民主党
- 共産党（極左）

大統領内閣

ブリューニング(中)	'30.3~'31.10
ブリューニング(中)	'31.10~'32.5
パーペン	'32.6~'32.11
シュライヒャー	'32.11~'33.1

第8回 ホロコースト3

1933年1月30日 ヒンデنبルク大統領がヒトラーを首相に指名

2月27日 国会議事堂放火事件。共産党の実質的非合法化。

3月5日 総選挙

3月23日 全権委任法(民族および国家の危難を除去するための法律 Gesetz zur Behebung der Not von Volk und Reich)。賛成441、反対94。

全権委任法

1. ドイツ国の法律は、憲法に規定されている手続き以外に、ドイツ政府によっても制定されうる。
2. ドイツ政府によって制定された法律は、国会および第二院の制度そのものにかかわるものでない限り、憲法に違反することができる。
3. ドイツ政府によって定められた法律は、首相によって作成され、官報を通じて公布される。特殊な規定がない限り、公布の翌日からその効力を有する。
4. ドイツ国と外国との条約も、本法の有効期間においては、立法に関わる諸機関の合意を必要としない。
5. 本法は公布の日を以て発効する。

独裁体制の確立

5月 労働組合の禁止

6月 社会民主党の活動禁止

7月 ナチス党以外の政党の禁止

1934年8月 ヒンデنبルク死去。ヒトラーが総
統兼首相になる。

ユダヤ人迫害

1933年 ボイコット、公職追放

1934年 ユダヤ人との婚姻の禁止

1935年 ニュルンベルク法(ドイツ人の血と名誉を守るための法)

1938年11月9～10日 水晶の夜

1933年、ドイツ国内のユダヤ人は全人口の0.75%、およそ50万人

第2次世界大戦へ

1935年 再軍備

1936年3月 ラインランド進駐

1938年3月 オーストリア併合

同年9月 ズデーテン地方割譲

1939年3月 チェコ侵入、チェコスロバキア解体

同年9月 ポーランド侵攻

1940年6月 フランスが降伏

同年9月 日独伊三国軍事同盟

1941年6月 ソ連に進撃

1942年1月 ヴァンゼー会議、ユダヤ人絶滅計画

同年3～10月 ラインハルト作戦

1945年5月7日 ドイツが無条件降伏

- ナチスによる迫害の犠牲者 共産党員、社会民主党員、自由主義者、労働組合員、聖職者、ユダヤ人、ジプシー(シンティ・ロマ)、エホバの証人、フリーメーソン、同性愛者、障害者、反社会的分子
- 突撃隊(Sturmabteilung)、親衛隊(Schutzstaffel)、ゲシュタポ(Geheime Staatspolizei 秘密国家警察)、強制収容所(KZ Konzentrationslager)

パリの場合

1939年9月3日 英仏がドイツに宣戦

1940年5月 ドイツがマジノ線を突破

同年6月 フランスが対独降伏

同年7月 ヴィシー政府成立

1942年7月16～18日 フランス警察が、パリの
無国籍ユダヤ人1万3千人を逮捕し、4千人の
子供を含む9千人がアウシュヴィッツへ送られ
る。

デンマークの場合

1940年 ドイツがデンマークを占領

1943年10月 移送が近いことが分かると、7220
人のユダヤ人が漁船でスエーデンに避難

464人がテレージエンシュタットに移送され、51
人がそこで死亡

第8回 V. E. フランクル

1905年3月26日 ウィーンに生まれる。

1930年 博士号(医学)を得る。

1937年 神経科と精神科の診療所を開く。

1938年3月ドイツがオーストリアを併合

1942年9月 妻、父、母、兄弟とともに逮捕され、テレージエンシュタットの強制収容所に移送される。

父はそこで餓死。母と兄弟は1944年にアウシュヴィッツで殺される。妻は1945年にベルゲン＝ベルゼンで死亡。姉妹のステラだけは、先にオーストラリアに移民。

1944年 アウシュヴィッツに、次いでダッハウ強制収容所に移送される。妻は、アウシュヴィッツからベルゲン＝ベルゼンに移送される。

1945年4月29日 ダッハウ強制収容所が解放される。

1946年 『夜と霧 (Ein Psycholog Erlebt das Konzentrationslager)』出版。

1948年 ウィーン大学医学部准教授

1955年 同教授

1997年9月2日 逝去(92歳)

『夜と霧』の内容目次

心理学者、強制収容所を体験する

知られざる強制収容所、上からの選抜と下からの選抜
(カポー)「いい人は帰ってこなかった」、被収容者
119104の報告

第1段階 収容

アウシュヴィッツ駅(恩赦妄想)、最初の選別、消毒、人
に残されたもの—裸の存在

第2段階 収容所生活

感情の消滅、内面への逃避、魂の教導

第3段階 収容所から解放されて

離人症(自由の非現実感)→食べる・語る→感情のほと
ばしり→新しい人生の始まり

第9回 エリ・ヴィーゼル

1928年9月30日 ルーマニアのトランシルヴァニア地方（1940年からハンガリー領）の小都市シゲトに生まれる。

1940年11月 ハンガリーが独伊日三国同盟に参加

1942年 外国籍のユダヤ人がシゲトから放逐される。
堂守りのモシェも移送されていった。

同年末 モシェが逃げ帰ってきて、虐殺について知らせる。

1944年3月19日 ドイツがハンガリーを占領

1944年春 シゲトのユダヤ人がゲッソーに隔離される。しかるのちに、移送が始まる。(両親と姉2人、妹1人)ビルケナウに到着、アウシュヴィッツに入れられ、ブーナに移される。

1945年1月 グライヴィッツまで歩き、ブーヘンヴァルトまで移送される。ブーヘンヴァルト到着後に父が死亡

同年4月11日 ブーヘンヴァルト強制収容所がアメリカ軍によって解放される。

母と妹は、アウシュヴィッツで死亡していた。
戦後、フランスの孤児院で過ごす。

1948年 ソルボンヌ大学入学

1956年 渡米

1958年 『夜 (La Nuit)』出版

1963年 アメリカ合衆国の市民権を得る。

1972年 ニューヨーク市立大学教授

1976年 ボストン大学教授

1986年 ノーベル平和賞受賞

『夜』の内容目次

1. シゲト
2. 移送
3. ビルケナウとアウシュヴィッツ——被収容者番号
A-7713
4. ブーナ
5. 1944年秋から1945年1月
6. グライヴィッツまでの行進
7. ブーヘンヴァルトへの移送
8. 1945年1月29日まで
9. 解放(4月11日)

強制収容所の解放

- 1944年7月23日 ソ連軍がマイダネクを解放。
同夏に、ベウジェツ、トレ布林カ、ソビブルも解放
- 1945年1月27日 ソ連軍がアウシュヴィッツを解放
- 同年4月11日 米軍がブーヘンヴァルトを解放
- 同年4月15日 英軍がベルゲン＝ベルゼンを解放
- 同年4月29日 米軍がダッハウを解放

プロテスタント諸教会の抵抗

1933年9月 NSDAP系のドイツ・キリスト者による統一帝国教会成立。同時に、ニーメラー、ボンヘッフアーなどを中心とする牧師緊急同盟が活動を始める。

1934年5月 告白教会。バルメン宣言「聖書に証しされているイエス・キリストこそ、我々が耳を傾けるべき、唯一の神の言葉であり、我々は生においても死においても、このキリストにのみ信頼し、キリストにのみ従う。」

カトリック教会の対応

1930年9月 マインツ司教区の方針

1. 全カトリック信徒は、NSDAPの登録党员となることを禁じられる。
2. ヒトラー党の党员が集団で隊を組んで葬儀その他の行事に参加することを厳禁する。
3. カトリック信徒がNSDAPの登録党员であるかぎり、教会の秘跡に与ることは許されない。

1931年3月 バイエルン、ケルン、パーダーボルンなどの司教区の声明「現実の信仰および道徳の教えの警護者たる司教団としては、国民社会主義がカトリックの教えと適合しえない文化政策上の考え方を宣伝し続けるかぎり、国民社会主義を警戒するよう呼びかけざるをえない。」

1933年7月 政教協約 (concordat)、聖職者の政治活動禁止。

1937年3月 教皇ピウス11世『燃える如き憂慮をもって (Mit brennender Sorge)』、「過去数年見守っていたことによって、負うべき責任が明らかになった。明らかになったのは、最初から破壊のための闘いのみを目指し、それ以外の目標をもったことなどない陰謀である。」「人格としての人間には神から与えられた権利があり、社会の側がその権利の否認、停止、蹂躪を目的として干渉することは、いかなる個人にも起こってはならない。」

1939年3月 パチェリが教皇ピウス12世として即位。

ナチスの優生思想

1933年7月 「遺伝疾患をもつ子孫を避けるための法」、1934年から1940年までに約40万人が避妊手術を施された。

1939年10月 「**生きるに値しない生命**」の安楽死（T4作戦）、1945年までに12万人が殺された。

1940年7月19日 ヴュルテンベルク邦教会監督ヴルムの内務大臣フリック宛書簡「弱く、身を守る術もない者の命が抹殺される、それも、その者たちが我々にとって危険だからというのではなく、我々がその者たちを養育し、世話し続けるのが大変だからという理由で抹殺されるのは、神の掟に反する。」

1941年8月3日 ミュンスター司教ガーレンの説教
「ベルリンの指令により、精神障害者の療養・擁護施設から、障害が長期にわたり、おそらく治癒しえないように見える障害者が強制的に送り出されている。その後ほとんどなく家族の者は決まって、死体は焼却した、骨は送付可能であるという通知を受け取る。」「いわゆる『生きるに値しない生命』を殺してかまわないという考え方を認めれば、もはや働くことのできない戦傷者、身体障害者、不治の病人、老人なども、原則として強制的に殺してよいということになる。」それはつまり結局、「我々すべてが年をとって身体が働かなくなり、役に立たなくなったら、殺される」ということである。

ヒトラー暗殺計画

1939年11月8日 ミュンヘンのビュルガーブローイ
ケラーで、エルザがヒトラーの演説時間に合
わせて時限爆弾を仕掛ける。しかしヒトラーは、
演説を早めに切り上げて難を逃れる。

1943年3月13日 トレスコウ大佐の依頼で、
シュ ラブレンドルフ中尉が、スモレンスクからラ
シュテンブルクに向かうヒトラー専用機に時
限爆弾を仕掛けるが、不発に終わる。

1943年3月20日 男爵ゲルスドルフ大佐が、ベルリンの展示場でヒトラーを案内する際にヒトラーを巻き添えにして自爆する予定であったが、ヒトラーは展示場を通過してしまう。

1943年11月 伯爵シュタウフェンベルク大佐に依頼されて、ブッシュェ大尉がヒトラー暗殺の自爆計画に志願するが、12月16日に爆撃によって制服が消失したために、計画は中止される。

1944年7月20日 ヴァルキューレ作戦

12時42分 総統本営ヴォルフスシャンツェで
シュタウフェンベルク大佐が仕掛けた時限爆
弾（1キロ）が爆発。しかし、仮小屋にいた24人
のうち4人は致命傷を負い、その他の者もほと
んどは重傷を負うが、ヒトラーは軽傷。

ベルリンとパリでヴァルキューレ作戦が動き
出すも、翌朝までには鎮圧される。

小論文の課題

ジャン・バニエ『人間になる』を読んで、その内容を要約する。その上で、バニエの考えを論評する。

字数 2000字程度（要約1600字程度、論評400字程度）

書式 400字詰め原稿用紙に手書きで

提出日 1月25日（金）

提出場所 教室

注意事項

- 要約するとは、抜き書きすることではない。できるだけ引用するのではなくて、自分の言葉でバニエの考えをまとめる。
- 感想を書くのではない。
- 書物の1部を要約するのではない。全体を要約する。

第11回 ジャン・バニエ

1928年9月10日 ジュネーブで生まれる。

父 ジョルジュ、母 ポーリン、姉 テレーズ、長兄 ベネディクト、次兄 ベルナール、弟 ミシェル

1931年 ジョルジュがロンドンに転勤

1939年 ジョルジュが駐仏公使になる。

1940年 ロンドンに逃れ、カナダに戻る。

1943年 ジョルジュが亡命政府担当大使としてロンドンに赴く。

1944年 ジョルジュが駐仏大使になる(～1953年)。

- 1959年 ジョルジュが第19代カナダ総督になる(～1967年)。
- 1940年 ポーリンがロンドンで赤十字の活動に加わる。
- 1944年 ポーリンがカナダ赤十字の代表としてパリに戻る。
- 1967年 ポーリンがカナダ勲章を授与される。
- 1972年 ポーリンがラルシュの家に加わる(～1991年)。
- 1942年 イギリスの海軍兵学校に入学
- 1945年 第2次世界大戦終了
- 1947年 ベネディクトが厳律シトー会に入る。
- 1950年 海軍を辞める。トマ神父と再会。ソールシュワル学院に入り、「活ける水」に加わる。

1952年 トマ神父がソールシュワル学院を去る。

1956年 「活ける水」を離れる。

1962年 パリ・カトリック大学から博士号を得る。

「幸福——アリストテレス倫理学の原理と目的」

1963年 聖マイケル・カレッジに就職。

1963年 トマ神父が「花咲き溪谷」の司祭になる。

同年秋、トマ神父から「新しい友だちができたから
会いにこないか」と誘われる。

同年12月 「花咲き溪谷 (Val Fleuri)」を訪ねる。

1964年5月 哲学教師を辞める。

同年8月 ラファエル・シミとフィリップ・スーと共同
生活を始める。「ラルシュ (L'Arche)」の始まり。

1965年 「花咲き溪谷」の施設長も引き受ける。

1966年 3番目の家「小枝 (Les Rameaux)」を開設

1968年 4番目の家「庵 (L'Ermitage)」を開設

1969年 トロント近郊にラルシュ「あけぼの」
(Daybreak)が開設される。

1970年 フランス国内のクービヤックにラルシュ
「慈しみ (La Merci)」が、インドのバンガロールに「希望の家 (Asha Niketan)」が開設される。

現在では、35カ国に、147の共同体がある。

1968年 パリで、マリーエレン・マツシューに出会う。

1971年 ルルドへの巡礼を行う。15カ国から1万2千人が参加。そこから、**信仰と光** (Foi et Lumière) が生まれる。

現在では、約80カ国に1690の共同体がある。日本には、11の共同体がある。

1970年～ インドなど途上国を訪問し、途上国の貧困を目の当たりにする。

1973年～ カナダの刑務所で講演や黙想会をする。

1978年 「森の家 (La Forestière)」を開設

- 1980年 「森の家」で生活する。
- 1986年 カナダ勲章を授与される。
- 1987年 初来日、神戸で黙想会
- 1992年 愛知県美浜で黙想会
- 1998年 静岡で黙想会
- 2015年 テンプルトン賞を受賞

ラルシュの組織

国際ラルシュ連盟

ラルシュ共同体（例えば、ラルシュ・かなの家）

ラルシュの家（例えば、つどい、いぶき、こころ）
や作業所（例えば、まどい）、事務所など

「ラルシュ」と「信仰と光」

- ラルシュ 知的障害のある人とない人との共同生活、文字通りに家 (home)
- 信仰と光 ラルシュのような共同生活をしていない場合に、例えば知的障害のある人が施設に入っていたり家族と暮らしていたりする場合に、知的障害のある人とその家族や友人が定期的に集まって、お互いを支え合っていく集まり

施設とラルシュの家との違い

- 規模 施設は効率的なように大きい(大舎制)。ラルシュの家は小さい(地域小規模)。
- 関係 施設では、従業員と顧客。人間関係はあまり重要ではない。ラルシュの家では、寝食を共にするという意味で家族、対等という意味で友だち。家族関係も友だち関係も、生涯の関係。

バニエの思想

- Paternalism家長主義⇔Empowerment権限付与、自由を尊重する
- 知的障害、精神障害、身体障害
- 現代社会は競争文化。現代社会は壊れている。
- 幸福＝自己実現

キリスト教の要素

「わたしの名のためにこのような子供の1人を受け入れるものは、わたしを受け入れるのである。私を受け入れる者は、わたしではなくて、わたしをお遣わしになった方を受け入れるのである。」
(マルコ9:37)

「お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気の時に見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。」(マタイ25:35～36)

アリストテレス主義

- 可能性の哲学 成ることができるものが、成ることができるものに成る。例えば、受精卵が胎児に、胎児が赤ちゃんに、赤ちゃんが子供に、子供が大人に成っていく。あるいは、生命のなかった地球から生命体が生まれ、そこからさまざまな種が発達してくる。

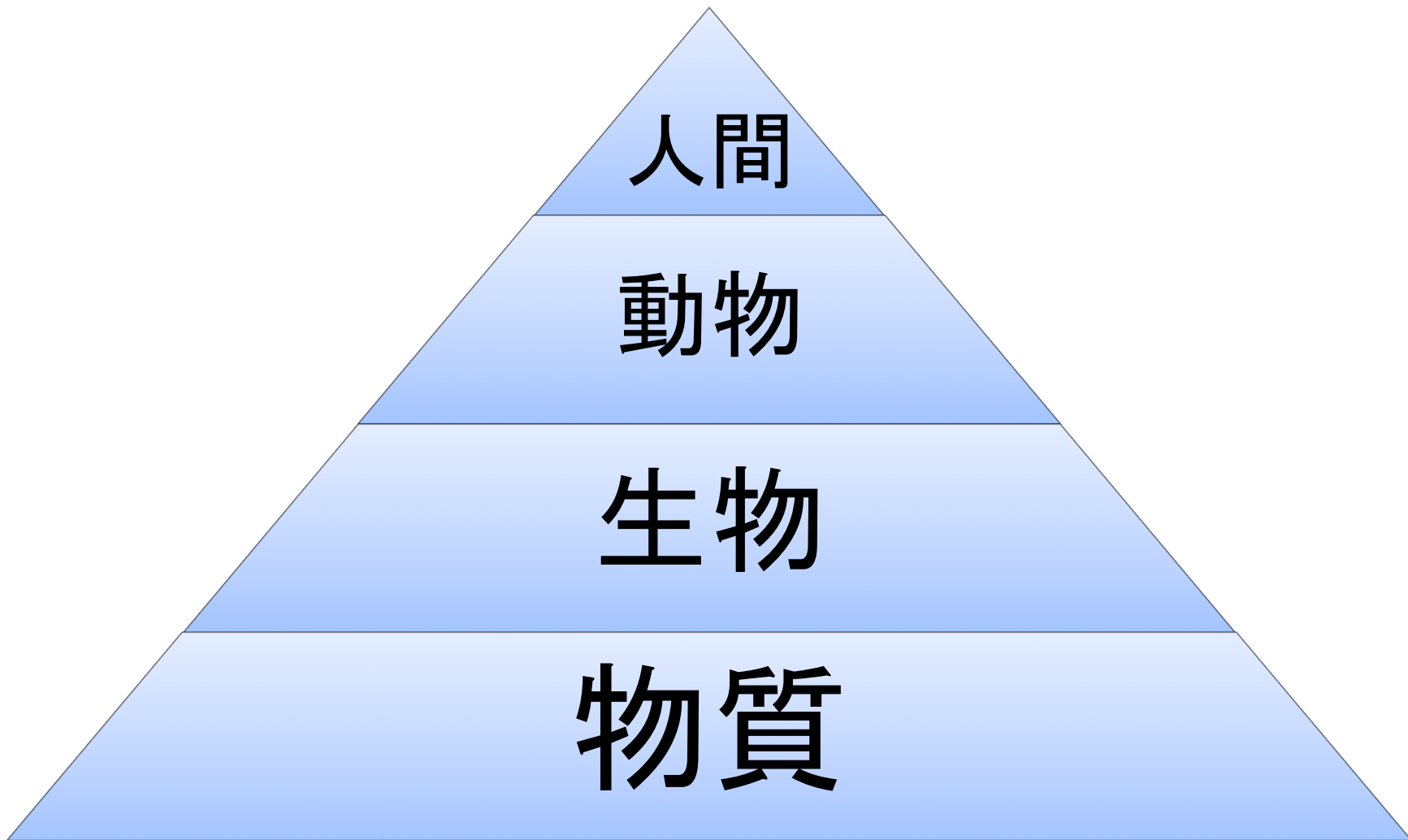
存在の階層構造

人間

動物

生物

物質



- 人間 動物でありながら、たんなる動物ではない。
- 動物 生物でありながら、たんなる生物ではない。
- 生物 物質でありながら、たんなる物質ではない。
- 物質 たんなる物質

魂＝自己運動の原理

- 動かされて動くもの＝物質（無機物）
- 自分で動くもの＝生命体

- 素材＋人間靈魂＝人間
- 素材＋動物靈魂＝動物
- 素材＋植物靈魂＝植物
- 素材＝無機物

魂の働き

- 人間靈魂の働き＝動物靈魂の働き＋**理性**
- 動物靈魂の働き＝植物靈魂の働き＋**感覺、運動**
- 植物靈魂の働き＝**栄養、成長、繁殖**

ただし、バニエは、理性を愛に置き換える、あるいは理性よりもっと重要なものとして愛を付け加える。

だから、愛の能力を発達させ行使しない人は、幸福の点で重要なものを欠いている。

「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(マタイ5:48)

「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」(ルカ6:36)

質料形相主義

- すべてのものは、**素材**が一定の**形**をとったものである。つまり、物には、素材と形という2つの要素がある。例えば、人間と犬は、分子レベル、原子レベルで見れば、ほとんど同じ素材で出来ているけれども、形（設計図あるいは遺伝情報）が違う。机は、材木が一定の形をしたものである。金物のバケツとプラスチックのバケツとは、形が同じだけれども、素材が違う。

- ところが、素材には、ある形をとることができたりある素材をとることができなかったりということがあある。そこに、可能性のあるなしがある。例えば、人間には、読み書きをする潜在能力が宿っているけれども、空を飛ぶ潜在能力は宿っていない。

素材と形の積み重ね構造

- (原素材→)原子→分子→さまざまな物質→
具体的な物
- (原素材→)原子→分子→有機体
- (原素材→)原子→分子→さまざまな植物
- (原素材→)原子→分子→さまざまな動物
- (原素材→)原子→分子→人間

愛する能力

- 愛 = 慈しみ = 慈悲 = 憐れみ